

『声なき感情の声を聞く技術』

4

文 光吉俊二

text by Shunji Mitsuoshi

私

は15年の歳月をかけてある技術を創り、世に出しました。

それは、声の中から「脳の影響を受ける音響パラメータ」を見つけて、自動的に発話者の感情やストレスを分析する技術です。

この技術は、東日本大震災に出勤した自衛官のストレスを検出することで世界的に注目されました。

私自身、子供の頃、小学校の先生から問題児扱いされ、それを真に受けた母親が私を病院や特殊学級に本気で連れて行くこととしました。子供の私には、自分の気持ちや立場を大人に正確に伝えることができませんでした。

大学を出てから、科学者の道に進み、やがて、この感情認識技術を世に出すことになったのですが、その根底には、世の中に発言できない「声なき声」「涙なき涙」を認識して、それを周囲に明確に伝えたいという意識があったのか

もしれません。

そして、私のこうした深層心理を証明する出来事が起きました。

ある大学で講演をしたときでした。

話の途中でひとりの女学生が手を挙げました。彼女は耳が聞こえず、話す

ことも不自由ですが、一生懸命私にあることを伝えようとしていました。それは、私の技術を応用した任天堂DSのゲームで自分が救われたことと、これこそ先天的に耳の障害を持つ子供たちが待ち望んだ技術だということでした。

耳が生まれつき不自由だと、表情や文字情報だけからでは親や先生の感情が理解しにくく、それが原因で発達障害になる児童がいます。そのため、感情が色で見えることで、コミュニケーションの環境が格段に向上するようになります。

私は涙をこらえながら講義を続けま

した。そのとき、「声なき感情の声」を、音声から分析する精度を限界まで高めようと決心しました。

その後、fMRIを使った実験や研究に進み、医療機器認定を目指す意思を固めたこともこれに由来します。

小学生の頃、私を精神疾患と断定した担任の先生に感謝する今日この頃です。

Profile

日本の情報学者であり彫刻家。北海道札幌市出身。多摩美術大学美術学部彫刻科卒業。徳島大学大学院工学研究科博士後期課程修了、現在、博士(工学)。元スタンフォード大学バイオロボティクス研究所 Visiting Scientist (客員科学者)。現在、東京大学非常勤講師、株式会社AGI代表取締役である。専門は、ST (Sensibility Technology) 感性制御技術・VER 音声感情認識技術、音声脳神経分析技術。

